

授業科目名： 運動方法・水泳	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：大本 洋嗣、 遠藤 大哉、塩田 義法 クラス分け・複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技 体育		
授業のテーマ及び到達目標 クロールと平泳ぎは正しいフォームで100m泳ぐことができる泳力、バタフライと背泳ぎは正しいフォームで泳ぐことができることを目標とする。			
授業の概要 水泳の種目の中のクロールと平泳ぎを中心として正しいフォームと泳力習得に取り組む。バタフライ、背泳ぎについては基本技能を身につけることを目指す。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、水泳の基本についての説明 第2回：安全確認練習と水慣れ・クロールの基本技術練習1（姿勢、呼吸法、キック） 第3回：クロールの基本技術練習2（姿勢、呼吸法、キック、プル） 第4回：クロールの基本技術練習3（姿勢、呼吸法、コンビネーション） 第5回：クロールの総合練習1（100m泳ぐための反復練習） 第6回：クロールの総合練習2（100m泳力チェック）・水中ウォーキング、レジスタンス 第7回：平泳ぎの基本技術練習1（姿勢、呼吸法、キック） 第8回：平泳ぎの基本技術練習2（姿勢、呼吸法、キック、プル） 第9回：平泳ぎの基本技術練習3（姿勢、呼吸法、コンビネーション） 第10回：平泳ぎの総合練習1（100m泳ぐための反復練習） 第11回：平泳ぎの総合練習2（100m泳力チェック）・水中ウォーキング、レジスタンス 第12回：バタフライ、背泳ぎの基本練習1（姿勢）・水中ウォーキング、レジスタンス 第13回：バタフライ、背泳ぎの基本練習2（プル、キック）・水中ウォーキング、レジスタンス 第14回：バタフライ、背泳ぎの基本練習3（コンビネーション）・水中ウォーキング、レジスタンス 第15回：総合練習（4種目の泳力チェック）・水中ウォーキング、レジスタンス			
テキスト 運動方法水泳授業用テキスト（運動方法水泳研究室、叢文社、2021）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 泳力チェック（技能）と課題提出で評価する。（技能70%、課題30%）			

授業科目名： 運動方法・陸上競技	教員の免許状取得のための 選択科目(小学校) 必修科目(中学校)	単位数： 1単位	担当教員名： 鈴木 康介 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校並びに中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 陸上競技（運動）領域について、安全管理に配慮した上で各種目の技術の習得をはかるとともに、学習者にとって楽しく、安全に、仲良く、「できる・わかる」ようになる指導ができるようにする。			
授業の概要 陸上競技（運動）領域には走・跳・投運動が含まれ、それぞれ合理的な身体動作や技術が存在する。また、学校体育においてはそうした動作や技術をどのようにして学習者に指導するのか、様々に能力の異なる学習者に対して、どのようにしたら全員が楽しめるような授業にできるのか、といった視点が重要となる。この授業では受講生自身が実技によって合理的な身体動作や技術を身に付けながら、指導のポイントについても学んでいく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の進め方・注意事項）、陸上競技（運動）領域の指導の考え方 第2回：短距離走①（効率のよい走り方の技術と指導のポイント） 第3回：短距離走②（合理的なスタート動作と指導のポイント・50m走の測定） 第4回：短距離走③（学習者の意欲を喚起する短距離走指導の具体例） 第5回：リレー①（バトンパスの技術と指導のポイント） 第6回：リレー②（学習者の意欲を喚起するリレーの指導の具体例） 第7回：長く走る運動①（持久走・長距離走の位置づけと指導のポイント） 第8回：長く走る運動②（学習者の意欲を喚起する持久走の具体例） 第9回：ハードル走①（ハードル走の技術と指導のポイント） 第10回：ハードル走②（学習者の意欲を喚起するハードル走の具体例） 第11回：幅跳び①（走り幅跳びの技術と指導のポイント） 第12回：幅跳び②（学習者の意欲を喚起する走り幅跳びの具体例） 第13回：高跳び①（走り高跳びの技術と指導のポイント） 第14回：高跳び②（学習者の意欲を喚起する走り高跳びの具体例） 第15回：投運動（投運動の位置づけと技術、および指導のポイント）			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 陸上競技指導教本アンダー13：楽しいキッズの陸上競技（財団法人日本陸上競技連盟、大修館書店）			
学生に対する評価 実技への取り組み状況（50%）、毎回の授業時に提出するレポート（50%）			

授業科目名： 運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	教員の免許状取得のための 選択科目(小学校) 必修科目(中学校)	単位数： 1単位	担当教員名： 笠井 里津子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校並びに中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 学習指導要領に基づき「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」の実践を通して様々なダンス、身体表現ができるようになる。			
授業の概要 ダンスに必要な基礎技術理論を学ぶ。「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」についての知識と理解を深め実践する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 自己紹介授業目標と進め方について 第2回：創作ダンス講義①運動課題 ダンス用語の説明と基本的な下肢運動(ステップ等) 第3回：創作ダンス講義②運動課題 日常の動きをダンスに 下肢運動(リズムの説明と実践) 第4回：フォークダンス① 日常の動きをダンスにして班で創作 上肢運動(使い方の説明と実践) 第5回：フォークダンス② リズムの変化に伴った全身運動① 回転や上下運動を用いたダンス 第6回：創作ダンス講義③イメージ課題 リズムの変化に伴った全身運動②跳躍や移動の動き 第7回：創作ダンス講義④群構成課題 空間構成の理論と動きの実践(直線と曲線移動) 第8回：現代的なリズムのダンス①ステップとリズムの取り方 空間に曲線運動を入れた一連の動き 第9回：現代的なリズムのダンス②ステップと動きの組み合わせ 複数人数での曲線の空間移動 第10回：創作ダンス講義⑤課題の連続からソロへ 2拍子の基礎技術を生かした連続した動きへ 第11回：フォークダンス③日本の踊り 3拍子の基礎技術を生かした連続した動きへ 第12回：現代的なリズムのダンス③動きの連続と群構成から発表 ソロ内容確認と総合技術練習① 第13回：グループ発表に向けた作品創作について 総合技術練習② 技術試験 第14回：ソロ作品発表 総合技術練習③ 技術試験 第15回：創作作品の評価と判定について 総括・ノート整理			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 明日からトライ!ダンスの授業 改訂版(全国ダンス・表現運動授業研究会、大修館書店)			
学生に対する評価 技術試験(60%) 意欲態度(30%) 提出物(10%)			

授業科目名： 運動方法・ソフトボール(野球を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高橋 流星 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>運動やスポーツの特性を知り、技能を生かしながら自分の力に応じて楽しさを味わうこと大切にし、授業展開を行っていく。基本技術や集団における協調性・リーダーシップについて学ぶと同時に、生涯スポーツについても理解を深める。また、モラル習慣として授業態度についてはスポーツマンシップの実践を要求し、評価基準でも重要視される。</p> <p>① ソフトボールの基本技術（投球動作・捕球動作・打撃動作）を身につけ、説明できるようになる。</p> <p>② チームスポーツであるので、ゲームを通して、内・外野の連携プレーを学び、協調性を養う。</p> <p>③ モラル習慣としてのスポーツマンシップの実践に取り組むことができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>正しく捕る、正しく投げる、正しく打つといった基本的な動作であるが、難しい技術を毎週の授業で身につける。戦術、戦略等の高等な課題よりも、むしろ初歩的な考え方の学習を中心に授業を展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方と諸注意）</p> <p>第2回：守備に関するレクチャーⅠ 基本になるキャッチボールを学習する</p> <p>第3回：守備に関するレクチャーⅡ ポジション別特性の理解</p> <p>第4回：守備の目標到達へのアプローチ（送球・実技試験①）</p> <p>第5回：守備の目標到達へのアプローチ（ゴロ捕球・実技試験②）</p> <p>第6回：守備に関するレクチャーⅤ ウィンドミル投法の学習</p> <p>第7回：守備に関するレクチャーⅥ ウィンドミル投法の応用編</p> <p>第8回：攻撃に関するレクチャーⅠ 基本になるバッティングフォーム、ペッパーゲームの学習</p> <p>第9回：攻撃に関するレクチャーⅡ ティー打撃、フリー打撃による学習</p> <p>第10回：攻撃の目標到達へのアプローチ（トスバッティング・実技試験③）</p> <p>第11回：攻撃の目標到達へのアプローチ（ロングティー・実技試験④）</p> <p>第12回：試合（導入レベルのルールで実施）</p> <p>第13回：試合（オフィシャルルールで実施）</p> <p>第14回：ルールの勉強（ソフトボールと野球の違い、競技の歴史など）</p> <p>第15回：ルールの目標到達へのアプローチ（筆記試験・ルール、歴史について）</p>			
<p>テキスト スポーツテキスト 野球・ソフトボール 日体大編（古城隆利、トキア企画株式会社）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>図解科学 野球の科学（筒井大助監修、ナツメ社）</p> <p>2021中学体育実技 ソフトボール（高橋流星監修、学研教育みらい）</p> <p>絵とDVDでわかるスポーツ ルールとテクニック全10巻②野球・ソフトボール（高橋流星、学研教育出版）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>科目の評価は、合計授業数（15回）の2/3以上出席者を評価の対象とする。</p> <p>実技試験①(20点)、実技試験②(20点)、実技試験③(20点)、実技試験④(20点)、筆記試験(20点)、合計100点とする。尚、総合得点60点以上を合格とする。</p>			

授業科目名： 運動方法・球技A(ゴール型)	教員の免許状取得のための 選択科目(小学校) 必修科目(中学校)	単位数： 1単位	担当教員名： 藤田 将弘
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校並びに中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 バスケットボールの特性、学習内容を概括的に把握し、バスケットボールの動きを構成している基本的技能とルールを学習する。到達目標①バスケットボールの動きを構成している基本的技能を習得する。到達目標②ルールを理解し、ゲームを進められるようになる。			
授業の概要 授業を通してバスケットボールの特性、学習内容を概括的に把握する。前半は段階的に授業を進め、後半からは授業時間内において分習法と全習法を混合させながら系統的に授業を進める。			
授業計画 第1回：バスケットボールの特性及び授業展開計画等のオリエンテーション 第2回：ボールコントロールに関する技術の習得①（レイアップシュート） 第3回：ボールコントロールに関する技術の習得②（ジャンプシュート、セットシュート） 第4回：ボールコントロールに関する技術の習得③（パス、キャッチ） 第5回：ボールコントロールに関する技術の習得④（ドリブル） 第6回：ボールコントロールに関する技術の習得⑤（リバウンド） 第7回：ボディーコントロールに関する技術の習得①（チェンジオブディレクション） 第8回：ボディーコントロールに関する技術の習得②（ストップターン、ピポット） 第9回：ボディーコントロールに関する技術の習得③（ディフェンスの基本） 第10回：ゴール付近での1対1 第11回：アウトサイドでの1対1 第12回：グループ戦術①（2対1、2対2） 第13回：グループ戦術②（3対3） 第14回：ゲームを通してルールを理解する 第15回：バスケットボール競技に繋がるゲームを学ぶ			
テキスト バスケットボール授業用ノート（日本体育大学バスケットボール研究室）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 バスケットボール技術の出来映え（70%）、戦術の理解度（30%）をもって総合評価する。			

授業科目名： 運動方法・球技B(ネット型)	教員の免許状取得のための 選択科目(小学校) 必修科目(中学校)	単位数： 1単位	担当教員名： 古川 暁也 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校並びに中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 ・テーマ ネット型球技の各種目の特性を踏まえ、ラケットでボールを扱い、一回の返球によって攻撃を組み立て打ち合うバドミントンを中心に、ラケットの操作と操作直後の動き理解し、ダブルスや個人の技能に応じて戦術、作戦を重視した攻防を展開できるようにする。 ・到達目標 ①バドミントン競技の特色を理解している ②シャトルを正確に打つことができる			
授業の概要 ラケットの操作では、サービス、レシーブ、スマッシュ、カットなどの技能を用いて、返球場所をコントロールしたり、緩急や前後の空間への返球、シャトルの変化などによって、体勢を整えたり、相手の隙をついたりして攻防を展開する技能を、ラケット操作の直後の動きでは、空間を埋めたりカバーしたりする動きによって、攻防を展開する技能を身に付ける。			
授業計画 第1回：授業の進め方、バドミントン競技の特徴等について説明。 第2回：グリップの握り方、フォアハンドとバックハンドの打ち方の違いを説明し、シャトルに慣れさせる練習を行う。 第3回：ロングハイサービス、ショートサービスの打ち方、ドライブの打ち方について説明し、この練習を行う。 第4回：プッシュ、クリアーの打ち方について説明し、この練習を行う。 第5回：ドロップ、ヘアピンの打ち方を説明し、この練習を行う。 第6回：スマッシュの打ち方を説明し、その練習を行う。 第7回：半面フリー、半面クロスフリー等により、ゲームに近い状態で打つ練習を行う。 第8回：バドミンントンのルールをいくつか加えて簡易ゲームを行う。 第9回：ルールの数を増やしてゲームを行う。 第10回：シングルのルールについて説明し、ゲームを行う。 第11回：シングルの審判法について説明し、ゲームを行う。 第12回：ダブルスのルールについて説明し、ゲームを行う。 第13回：ダブルスの審判法について説明し、ゲームを行う。 第14回：団体戦を説明し、ゲームを行う。 第15回：トーナメント戦を説明し、ゲームを行う。			
テキスト 毎回の授業時に授業資料を配布する			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年告示 文部科学省、東山書房）			
学生に対する評価 実技テスト（70%）、課題レポート（10%）、授業への取り組みや学習態度（20%）により、総合的に評価する。			

授業科目名： 運動方法・体づくり運動(体操)	教員の免許状取得のための 選択科目(小学校) 必修科目(中学校)	単位数： 1単位	担当教員名： 小柳 将吾、澤井 雅志 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校並びに中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 体操は健康の維持増進を目的とし、学校体育・社会体育においても重要な位置を占め、生涯体育の基礎的な役割を果たしている。基礎的理論と実践から理解を深め、基本運動と体操の指導法を修得し、現場で指導できるようになる。			
授業の概要 一斉指導にて、テキスト「体操教本」を用いて理論学習をしながら、毎時間いろいろな体操を動いて学ぶ。			
授業計画 第1回：＜講義＞授業ガイダンス 体づくり運動とは？ ＜実技＞動きながら本授業の内容を理解する、ラヴェンダー体操 第2回：＜講義＞体操の歴史について ＜実技＞ラヴェンダー体操 ＜テスト①＞ラヴェンダー体操の実技試験 第3回：＜講義＞体操の概論について、体づくり運動の概論について ＜実技＞基本体操 第4回：＜講義＞基本的な動き、基本姿勢、体操の分類について ＜実技＞基本体操、チャレンジ運動 第5回：＜講義＞徒手体操について ＜実技＞基本体操、縄体操 ＜テスト②＞基本体操の実技試験 第6回：＜講義＞手具体操について ＜実技＞ボール体操 第7回：＜講義＞組体操について ＜実技＞いろいろな組体操 第8回：＜講義＞組立体操について ＜実技＞いろいろな組立体操 第9回：＜講義＞器具体操について ＜映像学習＞体操における映像および音楽 ＜テスト③＞男子：組立体操の実技試験、女子：ボール体操の実技試験 第10回：＜講義＞指導法：指導者とは ＜実技＞Oasis of Sands 体操 第11回：＜講義＞指導法：号令・説明について ＜実技＞駆け足体操 第12回：＜講義＞指導法：動きの見本について ＜実技＞体操の創作、体操指導の練習 第13回：＜講義＞指導法：指導環境について ＜実技＞体操の創作、体操指導の練習 第14回：＜テスト④＞体操指導の課題解説および練習 体操指導法到達試験 第15回：＜講義＞授業のまとめ ＜実技＞Jan-Ken-Pong-Pong 体操 ＜テスト⑤＞レポート提出			
テキスト 体操教本（荒木達雄・三宅良輔・伊藤由美子・小柳将吾、図書出版）			
参考書・参考資料等 体操Hand Book2（DVD）（日本体育大学 運動方法 体操研究室、株式会社 VAC）			
学生に対する評価 各種体操の課題到達試験：ラヴェンダー体操（10%）・基本体操（10%）・組立体操（10%男子）・ボール体操（10%女子）・指導法（20%）、授業態度（50%）			

授業科目名： 運動方法・器械運動	教員の免許状取得のための 選択科目(小学校) 必修科目(中学校)	単位数： 1単位	担当教員名： 中瀬 卓也 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校並びに中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標：マット運動、とび箱、鉄棒、平均台などを使用し「技が円滑にできること」を目標として、自己の努力や工夫によって洗練された運動が安定してできる段階まで練習すると共に、指導法及び補助法を身につける。			
授業の概要：器械運動は、教員免許状取得のための必修科目に位置づけられており、指導の現場においても確実に実践されていく種目となるため、器械器具の安全を確かめる項目や、指導法、補助法、技の習得など、指導するために必要な要素を幅広く学習していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：マット運動「前転」「後転」「開脚前転」「開脚後転」の基本運動と技術習得 第3回：マット運動「倒立」「倒立前転」「後転倒立」「側方倒立回転」の基本運動と技術習得 第4回：マット運動「伸膝前転」「前方倒立回転とび」の基本運動と技術習得 第5回：マット運動・到達目標の確認、試験を実施 第6回：とび箱運動「開脚とび」「かかえ込みとび」の基本運動と技術習得 第7回：とび箱「台上前転」「前方倒立回転とび」の基本運動と技術習得 第8回：とび箱・到達目標の確認、試験を実施 第9回：鉄棒運動「逆上がり」「後方支持回転」「足かけ下り」の基本運動と技術習得 第10回：鉄棒運動「前方支持回転」の基本運動と技術習得 第11回：鉄棒運動・到達目標の確認、試験を実施 第12回：平均台運動「歩行」「バランス技」の基本運動と技術習得 第13回：平均台運動「ターン」「ジャンプ」の基本運動と技術習得 第14回：平均台運動・到達目標の確認、試験を実施 第15回：全ての種目の到達目標の確認			
テキスト：器械運動授業ノート（体操競技研究室、アイオーエム）			
参考書・参考資料等：図解コーチ・体操競技（男子・女子）（体操競技研究室、アイオーエム）			
学生に対する評価：各種目において試験を実施し、到達目標に達している度合いで評価する。			

授業科目名： 運動方法・武道(柔道)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山本 洋祐
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
柔道の幅広い技術の修得と教育的意義について深く研究し、理解した内容を説明できるようになる。人間力の向上を計り社会人としての適応能力を身につけている。			
授業の概要			
柔道の歴史、礼法、受け身、投げ技、寝技の順番に指導し、怪我には充分配慮し、安全に授業を行う			
授業計画			
第1回：オリエンテーションー授業の進め方について			
第2回：柔道の歴史及び教育的意義、礼法（正座、控礼、立礼）について、試験(礼法)			
第3回：受け身、低い姿勢からの後方受け身、側方受け身、前回り受け身について			
第4回：受け身、高い姿勢からの後方受け身、側方受け身、前回り受け身について			
第5回：受け身の応用技術、崩し、作り、掛け、の説明、投げ技、腰技（大腰）について、試験(受け身)			
第6回：投げ技（背負い投げ、一本背負い投げ、体落とし）について			
第7回：投げ技（小内刈り、大内刈り、大外刈り）について			
第8回：投げ技（膝車、出足払い、送り足払い）について			
第9回：投げ技（釣り込み腰、体落とし）について、試験(投げ技)			
第10回：抑え技（袈裟固め、崩れ袈裟固め）抑え方と逃げ方について			
第11回：抑え技（肩固め、縦四方固め）の抑え方と逃げ方について			
第12回：抑え技（上四方固め、崩れ上四方固め、横四方固め）の抑え方と逃げ方について			
第13回：絞め技（裸絞め、送り襟絞め、片羽絞め）の絞め方と逃げ方について、試験(固め技)			
第14回：講道館柔道試合審判規定について説明、実際に試合を行う			
第15回：国際柔道連盟試合審判規定について説明、実際に試合を行う			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 柔道大辞典（山縣淳男、(株)アテネ書房）			
学生に対する評価			
技術試験(100%)によって評価する(礼法：25%、受け身：25%、投げ技：25%、固め技：25%)			

授業科目名： 運動方法・武道(剣道)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 新里 知佳野 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012年4月より中学校において全ての生徒に武道を履修させる事となった。打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合ができるようになる事を目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは自分自身が相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、互角稽古や試合ができるように展開していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業進行に関するオリエンテーション、剣道の歴史、剣道着・袴の採寸 第2回：剣道着・袴のつけ方、たたみ方。竹刀の名称と構造。礼法（座礼・立礼）。 第3回：1.基本動作(1)構え（自然体・中段の構え）、構え方・納め方(2)体さばき（足さばき） 第4回： 〃 (3)素振り(上下振り・斜め振り・空間打突) 第5回： 〃 (4)剣道具の装着Ⅰ（垂・胴・小手）(5)基本打突の打ち方と打たせ方（受け方） (6)切り返しⅠ 第6回： 〃 (7)剣道具の装着Ⅱ（面）(8)基本打突の打ち方と打たせ方（受け方） (9)切り返しⅡ 第7回：2.対人的技能(1)しかけていく技Ⅰ（一本打ちの技）(2)打ち込み稽古Ⅰ 第8回： 〃 (3) 〃 Ⅱ（二・三段の技、払い技）(4)打ち込み稽古Ⅱ 第9回： 〃 (5) 〃 Ⅲ（引き技）(6)打ち込み稽古Ⅲ(7)互角稽古Ⅰ 第10回： 〃 (8)応じていく技Ⅰ（抜き技）(9)互角稽古Ⅱ 第11回： 〃 (10) 〃 Ⅱ（すり上げ技）(11)互角稽古Ⅲ 第12回： 〃 (12) 〃 Ⅲ（打ち落とし技）(13)互角稽古Ⅳ 第13回： 〃 (14) 〃 Ⅳ（返し技）(15)互角稽古Ⅴ 第14回：3.試合 第15回：まとめ（素振り、しかけ技、応じ技）・実技試験</p>			
テキスト 日本体育大学剣道授業用テキスト（日本体育大学剣道研究室、叢文社）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
<p>学生に対する評価</p> <p>評価については上記授業内容を正しく身に付けてもらいたいため、実技試験内容（80%）、授業参加態度（20%）から評価する。</p>			

授業科目名： 運動方法・武道(相撲)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 齋藤 一雄
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 相撲の歴史、競技特性、基本的な姿勢や動作、審判法などを学び、最終的に自分たちで安全に試合展開ができるようになる。			
授業の概要 中学校学習指導要領（平成29年告示）に基づき国技相撲の歴史と実技を学ぶ			
授業計画 第1回：授業展開計画の説明 第2回：まわしの取り扱いの説明 第3回：基本姿勢（蹲踞・四股姿勢・仕切り・構え姿勢）の実践 第4回：基本動作（塵浄水・四股・運び足動作）の実践 第5回：対人実践（押し） 第6回：対人実践（寄り） 第7回：試験1（まわしの締め方および解説） 第8回：試験2（押し、寄りの動作および解説） 第9回：試合展開（選手の動き方） 第10回：試合展開（主審の動き方） 第11回：簡易相撲（蹲踞相撲、押し合い相撲） 第12回：試験3（試合展開および解説） 第13回：相撲のルール、競技特性、決まり手について 第14回：簡易試合（個人戦） 第15回：簡易試合（団体戦）			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東山書房）			
学生に対する評価 授業態度および試験からの総合評価 (授業態度30%・試験70%)			

授業科目名： スポーツ哲学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 波多腰 克晃
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」 ・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 体育・スポーツに関する諸問題を理解した上で、哲学的な視点を関わらせて説明できるようになる。			
授業の概要 体育・スポーツに関する諸問題を取り上げ、スポーツがなぜ人間にとって欠かせぬ文化となっているのかを哲学の視点から説明し、学生自身がスポーツを哲学的視点から考察する授業を展開する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：体育とはなんだろうか。</p> <p>第2回：スポーツとは何だろうか。</p> <p>第3回：スポーツの達成論的解釈-運動部活動と勉強の両立は可能か-</p> <p>第4回：スポーツの卓越論的解釈-スポーツの魅力とは何か-</p> <p>第5回：スポーツの卓越論的解釈-優れた人とは何か-</p> <p>第6回：フェアプレーとは何だろうか。</p> <p>第7回：スポーツと勝利至上主義①-ドーピング問題とは何か-</p> <p>第8回：スポーツと勝利至上主義②-ドーピングは許されるのだろうか-</p> <p>第9回：スポーツとメディア-メジャースポーツかマイナースポーツか決めるのは誰か-</p> <p>第10回：スポーツと商業主義-スポーツはお金のためにするのだろうか-</p> <p>第11回：スポーツと政治-スポーツは平和に貢献できるのだろうか-</p> <p>第12回：オリンピズムについて</p> <p>第13回：スポーツの遊戯論的解釈 -スポーツは遊びなのか-</p> <p>第14回：スポーツと芸術</p> <p>第15回：理解度の確認 定期試験および講評・授業内容の解説を行う</p>			
テキスト 授業中に適宜資料を配付する。			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>体育原理講義（高橋健夫編著、大修館）</p> <p>みらい スポーツライブラリー スポーツ文化論（高橋徹編著、みらい）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験（70%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（30%）</p>			

授業科目名： スポーツ心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高井 秀明
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」 ・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業の到達目標は、受講生がスポーツによる心理学的な影響について知識を深めて説明できるようになることである。			
授業の概要 スポーツ心理学とは、スポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問領域のことであり、応用心理学の一領域として捉えられている。この授業では、スポーツ心理学の理論とその実践的な利用法について学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：心理学からスポーツ心理学へ 第3回：スポーツ心理学の研究法 第4回：スポーツと発達 第5回：スポーツと学習 第6回：スポーツとパーソナリティ 第7回：スポーツと動機づけ 第8回：スポーツと社会心理学 第9回：競技の心理 第10回：スポーツメンタルトレーニング 第11回：心理臨床技法のスポーツへの応用 第12回：健康スポーツの心理 第13回：スポーツと臨床 第14回：スポーツ心理学の理論と応用 第15回：授業の補習および授業内試験			
テキスト はじめて学ぶスポーツ心理学12講（楠本恭久 編著、福村出版、2015）			
参考書・参考資料等 よくわかるスポーツ心理学（中込四郎、山本裕二、伊藤豊彦 編著、ミネルヴァ書房、2012）			
学生に対する評価 試験の結果によって評価いたします。			

授業科目名： スポーツ経営管理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齊藤 隆志
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」 ・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標：体育・スポーツ経営管理の構造・機能を理解し、各論として事業論、マーケティング論、組織・人材論、組織間連携、ガバナンス、危機管理論、プロデュース論等について実践的な観点から説明できる。			
授業の概要：体育・スポーツ経営管理の構造・機能を理解し、各論として事業論、マーケティング論、組織・人材論、組織間連携、ガバナンス、危機管理論、プロデュース論等について実践的な観点から実践的観点から学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業進め方、シラバス概要、受講のあり方、経営管理概念）、小テスト			
第2回：スポーツ経営管理の構造、概念、小テスト			
第3回：体育・スポーツ事業論とエリアサービス(事業経営)、小テスト			
第4回：体育・スポーツ事業としてのプログラムサービスとクラブサービス(事業経営)、小テスト			
第5回：スポーツ市場とマーケティング活動(マーケティング)、小テスト			
第6回：スポーツ組織（営利、非営利）の経営管理（組織経営と労務管理）、小テスト			
第7回：中間まとめ(スポーツ経営管理の構造と機能)、中間テスト、振り返りと試験内容解説			
第8回：スポーツ経営人材とプロフェッショナリズム(人材と専門的職能)、小テスト			
第9回：地域における学社連携、オープンイノベーション、新しい公共（組織間連携）、小テスト			
第10回：組織のインテグリティ、コンプライアンス、ガバナンス、CSR、危機管理、小テスト			
第11回：みるスポーツ経営の枠組みと有効価値論(みるスポーツ経営論)、小テスト			
第12回：スポーツプロデュース(スポーツプロデュース論)、小テスト			
第13回：スポーツイベントとまちづくり（イベント経営論）、小テスト			
第14回：中間まとめ（スポーツ経営管理の領域論）中間テスト、振り返りと試験内容解説			
第15回：全体総括（スポーツの未来にむけたスポーツ経営管理）、最終テスト、試験内容解説			
テキスト テキスト体育・スポーツ経営学（柳沢和雄 他、大修館書店）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価：毎回実施する小テスト(6割)、中間まとめ時に行う中間テスト（2割）、最終回に実施する最終テスト(2割)、授業に対する取り組み方（+α）から総合的に判定する。			

授業科目名： スポーツ社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 亀山 有希
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」 ・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツ社会学では、21世紀のスポーツの問題点について取り上げ・それぞれの事象について検討する。現代社会におけるスポーツの社会的機能・役割等について考えていくための基礎的な物の見方、考え方を育てることをねらいとする。到達目標は、毎回のテーマにそって歴史軸をとりながら、自らそのことについて説明することができることとする。			
授業の概要 近代スポーツはこれまで政治・経済、社会情勢に伴い変化してきた。近代スポーツの歴史を読み解いていくと、現代に通ずるスポーツの諸問題が散見される。そこで本授業では、「スポーツと暴力」「スポーツと政治」「スポーツと経済・コマーシャルリズム」「スポーツと薬物」といったスポーツの諸問題を取り上げ、これらが起きてしまう背景や構造を解き明かし、それぞれの現状と今後の課題を整理する。また、近代スポーツは決して華やかな表舞台だけではなく、その裏にさまざまな問題を抱えてここまで成長・発展してきたことを踏まえ展開していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション／スポーツ社会学を学ぶ意義／スポーツ規範 第2回：スポーツと暴力 第3回：日本の歴史と体育・スポーツ（日本的スポーツ集団の成立過程） 第4回：日本の歴史と体育・スポーツ（戦争とスポーツ） 第5回：スポーツの歴史の変遷（第1～4講義の中間まとめとQ&A） 第6回：国際比較とスポーツ（ヨーロッパのスポーツ） 第7回：スポーツと地域社会（日本のスポーツ政策） 第8回：災害とスポーツ（地域スポーツの実際） 第9回：スポーツ政策と課題（第6～8講義の中間まとめとQ&A） 第10回：スポーツとドーピング（アンチ・ドーピング、スポーツのリスクマネジメント） 第11回：企業とスポーツ 第12回：スポーツとメディア 第13回：オリンピックとスポーツ 第14回：障がいとスポーツ 権利としてのスポーツ 第15回：スポーツと社会（まとめ） 定期試験：試験期間中に実施する			
テキスト スポーツ社会学～過去から学ぶスポーツの未来～（依田充代編著、共栄出版、2004年）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜、資料を配布する。			
学生に対する評価 毎授業の終了時にレポート課題を設定し、授業内容の理解度を確認する。また、定期試験を実施し、本科目の総合的な理解度を確認する。 レポート試験（60％）、毎授業の課題提出レポート（40％）			

授業科目名： スポーツ史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福井 元
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」 ・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 体育・スポーツの歴史を学ぶことで、保健体育科の教員や、生涯・競技スポーツの指導者に必要な歴史的知識を習得することに加え、以下に示す3点を具体的な到達目標とする。 ・世界各国のスポーツの歴史を概観することで、これまでのスポーツの理解ができる。 ・これまでの社会について、スポーツを通じた説明ができる。 ・現代のスポーツが抱える課題を明らかにすることができる。			
授業の概要 スポーツは、今日まで平和の象徴とされてきたが、実際には政治的な手段や植民地政策の一環などとして利用されてきた。また、現在のスポーツを取り巻く状況は過度の商業主義や、記録、勝利への追求のあまりドーピングが行われるなどの問題が山積している。 このような問題を再び繰り返すことなく、解決するには、過去を明らかにすることが必要不可欠である。 従ってスポーツの歴史について学習することによって、現在のスポーツを知り、これからのスポーツがどのような方向へ進んでいくのかについて考察する。			
授業計画 第1回：学習内容の説明 第2回：スポーツ史の対象と領域 第3回：体育・スポーツの概念史 第4回：未開社会のスポーツの概要 第5回：未開社会のスポーツの実例 第6回：古代のスポーツの概要 第7回：古代のスポーツの事例 第8回：前近代のスポーツの概要 第9回：前近代のスポーツの実例 第10回：近代スポーツのはじまり 第11回：近代スポーツの拡がり 第12回：近代スポーツの日本への移入 第13回：近代オリンピック史 第14回：まとめ、重要事項の確認 第15回：試験および試験内容の解説			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 スポーツ史講義（稲垣正浩・谷釜了正、大修館書店） 近代体育スポーツ史年表（岸野雄三他、大修館書店）			
学生に対する評価 試験80% 授業内レポート20%			

授業科目名： トレーニング学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 須永 美歌子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」 ・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 子どもから高齢者を対象とした適切なトレーニング方法を学び、個々の発育発達および加齢に伴う身体の変化に応じたトレーニングプログラムの作成ができる知識と能力を習得し、安全で効率的な運動指導ができるようになることを目標とする。			
授業の概要 子どもの発育発達および加齢に伴う運動時生理反応やトレーニングによる適応について学習する。また、トレーニングプログラムを作成するために必要な諸理論について理解し、トレーニングプログラムの立案を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：健康づくりのための身体活動の必要性・運動指針 第3回：トレーニングの原理・原則 第4回：運動プログラム作成の基礎 第5回：メタボリックシンドロームの予防と改善のための運動 第6回：有酸素運動とその効果 第7回：有酸素運動のプログラミング 第8回：レジスタンス運動とその効果 第9回：レジスタンス運動のプログラミング 第10回：ウォーミングアップとクーリングダウン 第11回：高齢者を対象としたトレーニングの必要性和注意点 第12回：子どもを対象としたトレーニングの必要性和注意点 第13回：子どもの持久力向上のためのトレーニング 第14回：子どもの筋機能向上のためのトレーニング 第15回：女性の身体的特性を考慮したトレーニング 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 女性アスリートの教科書（須永美歌子著、主婦の友社）			
学生に対する評価 毎時間の小テスト（20%）およびすべての範囲における最終テスト（80%）を基に評価する。			

授業科目名： スポーツ生理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 須永 美歌子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体運動におけるエネルギーについて理解し、説明することができる。 2. 運動やトレーニングにおける生体諸機能の変化や適応について理解し、相互連関について解説することができる。 3. 運動やトレーニングにおいて生じる生理学的メカニズムとその現象について理解し、解説することができる。 4. スポーツ生理学の実践的応用について考察することができる。 			
授業の概要			
運動やトレーニングにおける筋・神経・呼吸・循環機能といった生体諸機能の生理学的応答や適応のメカニズムを理解し、競技力向上や健康増進のための運動やトレーニングに応用可能な知識を深める。			
授業計画			
第1回：運動やスポーツにおける身体の適応			
第2回：運動中のエネルギー供給システム			
第3回：筋の構造と機能			
第4回：筋収縮様式とトレーニングによる適応			
第5回：身体運動における筋と神経			
第6回：運動時の筋機能と神経機能の相互連関			
第7回：呼吸器の構造と機能			
第8回：運動時の呼吸応答とエネルギー代謝			
第9回：循環器の構造と機能			
第10回：運動トレーニングにおける循環機能の変化と適応			
第11回：運動とホルモン			
第12回：運動時の呼吸機能と循環機能の相互連関			
第13回：スポーツとウエイトコントロール			
第14回：運動時の生体諸機能の相互連関			
第15回：スポーツ生理学の現場応用（競技や指導への応用について）			
定期試験			
テキスト 1から学ぶスポーツ生理学（中里浩一、岡本孝信、須永美歌子著、ナップ）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			
毎時間の小テスト（20%）およびすべての範囲における最終テスト（80%）を基に評価する。			

授業科目名： 衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木村 直人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・衛生学・公衆衛生学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>衛生学・公衆衛生学の目的は、人々の疾病を予防し、健康の保持増進を図り延命をもたらすことである。したがって、人々の健康を守り高める努力は、社会の中の個人と社会組織活動によるものが一体となって進められる。そこで、衛生学・公衆衛生学の学修により、個人と社会組織を合わせた健康づくりの基礎的知識について理解した内容を説明出来るようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>主な概要として、①健康の概念、WHOについて、②人口統計、③疾病予防と健康管理、④感染症の予防（消毒も含む）、⑤環境保健、⑥運動選手の健康管理、などである。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：公衆衛生学（衛生学も含む）の歴史① 歴史と公衆衛生活動の変遷</p> <p>第2回：公衆衛生学（衛生学も含む）の歴史② 健康の概念、WHO 活動について</p> <p>第3回：予防医学 第1～3次予防、健康教育について</p> <p>第4回：人口統計 人口統計（人口ピラミッド等）について</p> <p>第5回：保健衛生統計① 人口動態統計について</p> <p>第6回：保健衛生統計② 出生等、健康に関わる保健統計について</p> <p>第7回：疾病の予防① 感染症について（感染源と感染経路）</p> <p>第8回：疾病の予防② 感染症について（免疫について）</p> <p>第9回：疾病の予防③ 感染症について（感染症法）</p> <p>第10回：疾病の予防④ 感染症について（消毒）</p> <p>第11回：環境保健①（物理的因子、暑さ寒さについて）</p> <p>第12回：環境保健② 化学的因子と大気汚染</p> <p>第13回：環境保健③ 水の汚染と水質汚濁</p> <p>第14回：運動選手の健康管理（体格と体組成）</p> <p>第15回：運動選手の健康管理（スポーツ障害）・試験</p>			
テキスト 21世紀の予防医学・公衆衛生（町田和彦・岩井秀明・木村直人 編著、杏林書院）			
参考書・参考資料等 なし			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験にて評価する（60%以上の正解を持って合格とする）。</p>			

授業科目名： 学校保健(小児保健・精神保健を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鹿野 晶子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校保健は、子どもの健康を守り育て到達可能な最高水準の健康を享受するという「子どもの権利」を学校で保障する役割を担っている。そこで本授業では、様々な視点から学校保健活動と子どもの健康の実態、さらにはそれらの課題を把握することをテーマに授業を展開し、以下の諸点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校保健の意義・制度・領域について理解し、説明できるようになる。 2) 子どもの現代的健康課題を理解し、それを説明できるようになる。 3) 学校保健推進の方法を理解し、関係者との協働に必要な態度・能力を身につける。 			
<p>授業の概要</p> <p>授業では、学校保健の意義・制度・領域について学ぶとともに、日本の子どもの健康実態と現代的健康課題に関する種々のエビデンス、それらの課題を改善するための実践等を紹介し、それらの情報から学校で子どもの健康を守り育てるための具体的方策を考える。また、地域や学校現場等の視点から学校保健に関する現状を理解し、その方策についても考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、学校保健の意義</p> <p>第2回：学校保健の目的・構造・内容</p> <p>第3回：保健管理（死亡率、死因）と学校保健</p> <p>第4回：保健管理（学校災害）と学校保健</p> <p>第5回：保健教育（いのちの学習）と学校保健</p> <p>第6回：保健管理（学校健康診断：むし歯、肥満・痩身）と学校保健</p> <p>第7回：保健管理（学校健康診断：視力不良）と学校保健</p> <p>第8回：保健管理（学校健康診断：体格）と学校保健</p> <p>第9回：保健管理（子どもの体力・運動能力）と学校保健</p> <p>第10回：保健管理（体調不良）と学校保健</p> <p>第11回：保健管理（メンタルヘルス）と学校保健</p> <p>第12回：学校保健組織活動と学校保健</p> <p>第13回：学校保健の関連法規</p> <p>第14回：学習到達度の確認（小テスト）と小テストの内容の解説</p> <p>第15回：学習到達度の確認の結果とまとめ</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト 必要に応じて授業時に資料を配布する。			
参考書・参考資料等 ガイダンス時に指示する。			
<p>学生に対する評価</p> <p>学習の到達度（小テスト）により評価する。（小テスト：100%）</p>			

授業科目名： 学校安全(救急処置を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林 正利 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>安全で健康な学校生活を送り、望ましい行動を行うために安全教育、安全管理に注目し、学校安全計画や危険等発生時対処要領の策定について理解した内容を説明できるようになるとともに心肺蘇生法や疾病・ケガの救急処置法を理解し実践できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校における安全教育と安全管理を計画的・組織的に行うために、生活安全、交通安全、災害安全に防犯安全を含めた各観点から対象集団の特徴を把握して、有効な事前・事後の危機管理や指導を行うための方策、知識、技術および救急処置法について身につけることができるように社会事象と関連つけて互いにディスカッションしながら講義を進めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：安全と健康に関わる世界と日本の方策の関わり 第2回：安全の概念と成立条件 第3回：安全のシステムとセルフケア 第4回：生活環境の安全確保 第5回：安全と危険に関わる要因の発見 第6回：危険等発生時対処要領の策定および災害安全、防犯安全 第7回：学校安全計画の策定 第8回：生涯教育としての学校安全教育 第9回：学校種別の安全教育 第10回：学校と交通の安全 第11回：運動と安全 第12回：救急処置の必要性和種類 第13回：熱中症と救急処置 第14回：学校での感染症予防 第15回：試験と学習のまとめ</p>			
テキスト 学校安全と危機管理 三訂版（渡邊正樹編著、大修館）			
<p>参考書・参考資料等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健・安全実務研究会編, 新訂版 学校保健実務必携（第5次改訂版）（第一法規） 2. 「生きる力」を育む学校での安全教育（文部科学省、東京書籍、令和元年5月） 			
<p>学生に対する評価</p> <p>講義における到達目標にどの程度達したかを判断するために、授業毎の小テスト30%および課題レポート20%、まとめ試験50%として最終評価を行う。</p>			

授業科目名： 体育科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 康介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校並びに中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、小・中学校体育の授業を行う教師に求められる資質能力として 1. 体育の目標および学習内容を理解し、説明できるようになる 2. 体育授業の対象を理解し、適切な指導の在り方について検討できるようになる 3. 目標到達のための教材づくりに関する能力を身につけ、実践できるようになる ことを目指す。			
授業の概要 本授業では、体育科教育学における“よい体育授業”に関する知見を踏まえ、体育の授業づくりに必要となる基礎的・基本的な内容を体系的に学ぶ。加えて、小・中学校の体育授業における各領域の典型的な教材、およびICTを活用した授業展開の実際について経験的に学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（これまでの体育授業の振り返りと、今後の学習の進め方の確認） 第2回：小・中学校体育の目標および学習内容 第3回：小・中学校体育の運動領域とカリキュラム 第4回：小・中学校体育の学習指導（学習形態と学習過程） 第5回：小・中学校体育の教授方略および教授技術 第6回：小・中学校体育の学習評価と授業評価 第7回：小・中学校体育の年間計画の作成 第8回：小・中学校体育の年間計画の完成 第9回：体育の教材論の理解 第10回：体育の教材案の作成 第11回：体育の教材案の完成 第12回：体育の教材の実践的理解①（小学校・体づくり運動） 第13回：体育の教材の実践的理解②（中学校・体づくり運動） 第14回：体育の教材の実践的理解③（表現運動・ダンス：ICTを活用した授業展開） 第15回：体育の教材づくりに関する振り返りとまとめ			
テキスト 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東洋館出版社） 小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年告示 文部科学省、東洋館出版社） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東山書房） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年告示 文部科学省、東山書房）			
参考書・参考資料等 体育科教育学入門【三訂版】（岡出美則・友添秀則・岩田靖 編著），大修館書店			
学生に対する評価 毎回の小レポート（70%），年間計画および教材案の出来栄え（30%）			

授業科目名： 保健科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白旗 和也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業のテーマは、保健体育科教員として中学校での保健学習の内容と実施方法の基礎力の習得であり、次のことを授業の到達目標にする。</p> <p>①学習指導要領の理解を目指し、保健学習の内容について、そのねらいや発達段階による学習内容の違い、取り扱う内容の例示などについて中学校学習指導要領解説を用いて理解を深め、説明できるようになる。</p> <p>②保健学習の指導者としての知識を身につけるために、実際の指導案づくりを通して授業計画が立てられるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領の理解、授業設計の理論と実践の理解、指導計画の作成と改善、教師の配慮に重点をおいて進める。</p> <p>序盤は中学校学習指導要領解説保健体育編を用いて理解を深める。講義だけでなく、具体的な内容について調べたり、発表したりしながらまとめていく。</p> <p>中盤は授業方法に関するよい授業の要件について整理していく。計画的視点、教材的視点、指導論的視点、教師行動の視点から学習を進める。</p> <p>終盤は、実際に指導案づくりを通して、授業の構成や指導計画の考え方について実践を通しながら学んでいく。指導案づくりについては、項目を分け、段階的に進めていく。導入の資料の収集、映像作成などでは、積極的に情報通信技術を活用していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の内容、方法、計画、評価などについて）</p> <p>第2回：学習指導要領解説を用いた学習指導要領の理解（目標について）</p> <p>第3回：学習指導要領解説を用いた学習指導要領の理解（内容について）</p> <p>第4回：学習指導要領解説を用いた学習指導要領の理解（方法、内容の取り扱いについて）</p> <p>第5回：保健体育教師のミッション、「よい授業を行う」とは、授業づくりのサイクル</p> <p>第6回：よい授業を行う（よい授業の条件、四大教師行動）</p> <p>第7回：よい授業を行う（授業場面の観察）</p> <p>第8回：よい授業を行う（教材・教具、学習形態）</p> <p>第9回：よい授業を行う（学習評価と評定）</p> <p>第10回：学習指導案とは、作成上のポイント</p>			

<p>第11回：学習指導案の作成の実際1（目標・内容について）</p> <p>第12回：学習指導案の作成の実際2（具体的指導内容・指導計画について）</p> <p>第13回：学習指導案の作成の実際3（本時案の作成・情報通信技術を活用した具体的な実践）</p> <p>第14回：作成した学習指導案の検討（グループワークで協議）</p> <p>第15回：学習指導案の完成と授業のまとめ</p>
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東山書房）</p> <p>中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年告示 文部科学省、東山書房）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校 保健体育）（国立教育政策研究所、東洋館出版社、2020年）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>原則，テストではなく日々の取り組みを観点ごとに評価する。</p> <p>【知識及び技能】授業設計（学習指導案の作成による）：50%</p> <p>【思考・判断・表現】基本的・専門的な知識の理解度、それらを活用した課題解決力（日々のレポート）：30%</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】授業等への取り組み方，グループ活動での取り組み（観察、提出物の状況による）：20%</p>

授業科目名： 体育科教育実践法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 康介 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校並びに中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、小・中学校体育の授業を行う教師に求められる資質能力として <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の設計能力を高め、計画をたてることができるようになる 2. 模擬授業を通して目標到達に向けた効果的な授業実践を行うことができるようになる 3. 授業の観察・分析にもとづく省察ができるようになる ことを目指す。			
授業の概要 本授業では、体育科教育学における“よい体育授業”に関する知見を踏まえ、体育の授業づくりを疑似的に体験することで授業実践能力を高める。具体的には、小・中学校学習指導要領解説に基づき、体育の目標・内容を改めて理解するとともに、指導計画（単元計画、学習指導案）を作成した上で模擬授業を実施し、省察を行う。模擬授業の省察にあたってはICTを活用し、受講生相互の振り返りの観点を共有しながら、より良い授業づくりに向けた改善提案が主体的にできるような学びの場を構成する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（体育授業の計画立案と模擬授業の進め方） 第2回：よい体育授業の条件と四大教師行動 第3回：体育の単元計画・学習指導案の作成 第4回：体育の単元計画・学習指導案の完成 第5回：模擬授業および授業観察①（小学校・体づくり運動） 第6回：模擬授業および授業観察②（中学校・体づくり運動） 第7回：模擬授業および授業観察③（小学校・ボール運動：ゴール型） 第8回：模擬授業および授業観察④（中学校・球技：ゴール型） 第9回：模擬授業および授業観察⑤（小学校・ボール運動：ネット型） 第10回：模擬授業および授業観察⑥（中学校・球技：ネット型） 第11回：模擬授業および授業観察⑦（小学校・器械運動） 第12回：模擬授業および授業観察⑧（中学校・器械運動） 第13回：模擬授業および授業観察⑨（小学校・表現運動） 第14回：模擬授業および授業観察⑩（中学校・ダンス） 第15回：模擬授業の振り返り：よい体育授業の条件の到達度に関する自己評価			
テキスト 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東洋館出版社） 小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年告示 文部科学省、東洋館出版社） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東山書房） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年告示 文部科学省、東山書房）			
参考書・参考資料等 体育科教育学入門【三訂版】（岡出美則・友添秀則・岩田靖 編著），大修館書店			
学生に対する評価 単元計画・指導案の完成度（30%）・模擬授業の内容（30%）・模擬授業の省察課題（40%）			

授業科目名： 保健科教育実践法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 白旗 和也 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、保健科教育法で理解した知識をベースに授業実践力を高めるための方策について学ぶことをテーマとする。</p> <p>到達目標</p> <p>①学習指導要領の理解に基づき、発達段階を考慮した指導内容について説明できる。</p> <p>②保健の授業づくりに必要な資質や能力を高め、実践することができる。</p> <p>③個人の体力や技能、個人生活・社会生活の実態に応じた保健行動に基づく指導内容・方法が工夫できる。</p> <p>④年間指導計画、単元の指導計画、単位時間の指導計画などの指導計画の作成において学習理論が活用できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>保健授業の実践力を高めるために、学習指導要領の理解、学習者の発達段階の理解、個人生活及び社会生活の実態の理解、評価観や評価活動の理解、関連する学問分野の主體的で深い理解に基づく実践を含めた授業の構成となる。次の内容を重点として進める。</p> <p>序盤は、保健科教育法の復習として、学習指導要領の内容について再確認を行う。</p> <p>中盤は、指導案作成から、授業の準備（保健のワークシート、配布資料、ポートフォリオ）から、実践内容、方法とP D C Aに基づく模擬授業の実践と改善、振り返りに至るまでを実際の模擬授業を通して学習する。その際、情報通信技術を活用したグループワークでの指導案見直し、模擬授業を録画した映像を視聴しての課題の整理を取り入れていく。</p> <p>終盤は授業を構成する年間指導計画をはじめ、生徒に当事者意識を持たせる教材づくりや教師行動について学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の内容、方法、計画、評価などについて）</p> <p>第2回：学習指導要領の目標や内容に即した教材づくり</p> <p>第3回：発達段階や個人生活・社会生活の実態に合わせた教材づくり</p> <p>第4回：保健の観点別評価や評価活動を考慮した教材づくり</p> <p>第5回：指導案の作成（グループワーク）</p> <p>第6回：各グループで作成した指導案を用いた模擬授業1（リフレクションシートを用いた評価方法）</p> <p>第7回：各グループで作成した指導案を用いた模擬授業2（学習の進行に関する評価）</p>			

- 第8回：各グループで作成した指導案を用いた模擬授業3（教師行動の評価）
- 第9回：各グループで作成した指導案を用いた模擬授業4（教材・題材に関する評価）
- 第10回：各グループで作成した指導案を用いた模擬授業5（アクティブラーニング手法の評価）
- 第11回：模擬授業を通じた授業実践の振り返り，指導案の修正（グループワーク）
- 第12回：単元計画を重視した保健の指導計画の作成
- 第13回：情報通信技術の活用を取り入れた模擬授業の展開と省察
- 第14回：学習評価について、実際の評価活動を活用する授業の展開
- 第15回：学習指導要領の内容から、発達段階を重視した授業の確認とまとめ

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東山書房）

中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年告示 文部科学省、東山書房）

参考書・参考資料等

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校 保健体育）（国立教育政策研究所、東洋館出版社、2020年）

学生に対する評価

原則，テストではなく日々の取り組みを観点ごとに評価する。

【知識及び技能】授業設計及び実践（学習指導案の作成，模擬授業の実践）：50%

【思考・判断・表現】基本的・専門的な知識の理解度、それらを活用した課題解決力（模擬授業でのリフレクションカード）：30%

【主体的に学習に取り組む態度】授業等への取り組み方，グループ活動での取り組み（観察、レポートの状況による）：20%

授業科目名： 法学(日本国憲法)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山崎 英壽
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
憲法と法律の違いを説明できるようになる。日本国憲法の特徴について説明できるようになる。人権の体系と内容を説明できるようになる。立憲主義の歴史と概念について説明できるようになる。近代国家と現代国家の特徴を説明できるようになる。			
授業の概要			
近代国家成立以降、国家の在り方がどのように変遷してきたかを明らかにしながら、憲法で保障される人権がどのように発展してきたかを検討する。立憲主義の発展について検討する。			
授業計画			
第1回：近代国家の成立と法・・・市民革命の意義と社会契約論			
第2回：人権の歴史と概念・・・自由権と社会権・イエリネクの4分類			
第3回：人権の私人間効力・・・住友セメント事件・三菱樹脂事件・昭和女子大学事件			
第4回：法人の人権・・・八幡製鉄政治献金事件・ボン基本法			
第5回：信教の自由・・・沈黙の自由と便宜供与・エホバの証人剣道拒否事件			
第6回：政教分離・・・津地鎮祭事件・自衛官合祀事件・愛媛玉串料事件・目的効果基準			
第7回：表現の自由(1)・・・表現の自由の優越的地位・表現規制・検閲			
第8回：表現の自由(2)・・・知る権利と報道の自由			
第9回：生存権(1)・・・プログラム規定説・抽象的権利説・具体的権利説			
第10回：生存権(2)・・・朝日訴訟・生活扶助貯金訴訟・福祉国家とは何か			
第11回：参政権・・・普通選挙・代表制民主主義・小選挙区制と比例代表制			
第12回：議院内閣制・・・大統領制との比較・衆議院の解散			
第13回：違憲審査制・・・恵庭事件・長沼事件・都教組事件・猿払事件			
第14回：象徴天皇制・・・立憲君主制・国事行為			
第15回：戦争の放棄・・・平和主義と非武装中立・日米安全保障条約			
定期試験			
テキスト 憲法要諦（山崎英壽著、文化書房博文社、2018年）			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業内で紹介します。			
学生に対する評価			
定期試験(80%) 授業中に2回実施する小テスト(20%)			

授業科目名： 児童スポーツ教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 近藤 智靖
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>子供を対象としたスポーツ教育に関わる基礎理論と方法について学ぶことが本科目のテーマである。具体的な到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 スポーツ教育の目標やねらいを理解し、その内容を説明できる 2 各運動領域の教材研究の方法を理解し、その内容を説明できる 3 教師や指導者行動の原則を理解し、その内容を説明できる 			
<p>授業の概要</p> <p>子供へのスポーツを教育する上で、対象者である子供理解力、スポーツという素材を加工修正していく教材研究力、さらに継続的・系統的なプログラムや単元の設計力は欠かせないものとなっている。本科目では、こうした三点を踏まえながら、よい指導者とは何かについて学んでいく。本科目で対象とする子供は、幼児児童生徒であり、幼稚園・保育園の幼児から中学生までである。本科目は講義形式ではあるものの、アクティブ・ラーニングの形式を参考にし、学生に思考・判断するような場面も多く設ける。具体的には、子供へのスポーツ指導場面の映像を見せ、その中での子供の運動技術上の課題、心理的な課題、指導者の指導行動や安全管理上の課題などについて、複数の発問を行い、学生間の話し合いの場（ペアやトリオ）を進める。毎授業では、スマートフォンやタブレット端末などのICT機器を使用し、教室のスクリーン上で意見を集約しながら学生間の意見交流を行う。さらに、子供の学びにとってより効果的なプログラムや単元の設計が行えるよう、プログラムや単元の立て方の原則について講義し、実際にプログラムや単元を設計させる。様々な発問への思考や話し合い活動を通じて、学生達が到達目標に示された力が身につくようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方や評価等）・スポーツ教育の目標と内容の拡がりについて</p> <p>第2回：良いスポーツ指導者の条件について</p> <p>第3回：良いスポーツ指導及び体育授業の条件について</p> <p>第4回：子供が伸びる指導者の声掛けの原則について</p> <p>第5回：子供が伸びる指導者の声掛けの原則について</p> <p>第6回：スポーツや体育を指導する際のマネジメントの原則について</p> <p>第7回：スポーツや体育を指導する際の計画づくりの原則について</p> <p>第8回：運動の苦手な子供の指導方法について</p>			

第9回：具体的な事例から指導方法を学ぶ-ボールゲームを指導する際の原則・方法について
第10回：具体的な事例から指導方法を学ぶ-器械運動を指導する際の原則・方法について
第11回：具体的な事例から指導方法を学ぶ-表現・ダンスを指導する際の原則・方法について
第12回：具体的な事例から指導方法を学ぶ-水泳を指導する際の原則・方法について
第13回：具体的な事例から指導方法を学ぶ-陸上運動を指導する際の原則・方法について
第14回：具体的な事例から指導方法を学ぶ-体づくり運動を指導する際の原則・方法について
第15回：子供のスポーツを指導する際の安全管理とまとめの試験

テキスト

初等体育授業づくり入門（岩田靖ほか、大修館書店）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

各時間の小レポート（50%）、まとめの試験（50%）

授業科目名： 英語コミュニケーション I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 東野 裕子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英語を使って自らの意見を、より正確に相手に伝える力（発信力）、および、聞こえてきた英語を正確に理解する力（受信力）を身に付ける。英語で積極的に発信する態度や英語を通して幅広い視野と多様な価値観を積極的に学び取る姿勢を身に付ける。			
授業の概要 ・テキストを活用し、異文化のテーマについての文章を読み、読んだ内容についてペアやグループでディスカッションを行う。練習問題をやる。 ・英語で示された新聞記事、テレビニュースを活用し、日常的な英語のスピードに慣れ親しみ、記事の内容を類推し、記事についてペアやグループで意見交流をする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：Talking about Yourself 第3回：Commuting by Train 第4回：Taking Classes 第5回：Talking with a Teacher 第6回：Finding Friends 第7回：Potluck 第8回：Four Seasons 第9回：Green Tea 第10回：Japanese Food 第11回：Part-Time Jobs 第12回：Shopping at a Clothing Shop 第13回：Asakusa 第14回：復習とテスト 第15回：まとめと授業内容の振り返り			
テキスト <i>Welcome to NIPPON!</i> （ようこそ！ニッポンへ【改訂版】）（田地野彰,石井洋佑、朝日出版社）			
参考書・参考資料等 新聞記事, TVニュース			
学生に対する評価 授業への貢献度20パーセント, 課題30パーセント, テスト50パーセント			

授業科目名： 英語コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 東野 裕子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語を使って自らの意見をより正確に相手に伝える力（発信力）、および、聞こえてきた英語、読んだ英語を正確に理解する力（受信力）を身に付ける。「比較して違いを学び、両者を使えるようにする」ことを通して、4技能5領域（聞く・話す〔やりとり、発表〕・読む・書く）を包括的に扱うことで、英語力の伸張を目指し、同時に、英語で積極的に発信する態度や、英語を通して幅広い視野と多様な価値観を積極的に学び取る姿勢を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストを用いて、「文法項目の比較」をテーマにしている文章を聞きディスカッション、練習問題を行う。文法構造についての復習を行う。 ・日本文化に関する新聞記事やテレビ番組を活用して、日常的な英語のスピードに慣れ親しみ、記事の内容を類推し、記事に関してペアやグループで意見交流する。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：See You Soon（現在形と現在進行形）</p> <p>第3回：Welcome to Japan!（数えられる名詞と数えられない名詞）</p> <p>第4回：Sandy's First Sushi（代名詞の使い分け）</p> <p>第5回：Festival Fun（形容詞と副詞）</p> <p>第6回：Play Ball!!（場所の前置詞と時の副詞）</p> <p>第7回：Lucky Cats（Yes/No 疑問文とWH 疑問文）</p> <p>第8回：No One Sings Like Brian（他動詞と自動詞）</p> <p>第9回：Yui's Cooking Class（不定詞と動名詞）</p> <p>第10回：Where's Sandy?（過去形と過去進行形と現在完了形）</p> <p>第11回：Let's Take a Hike（willとbe going to）</p> <p>第12回：Time for a Tour（助動詞の使い分け）</p> <p>第13回：Photos from Hakone（比較級と最上級）</p> <p>第14回：復習とテスト</p> <p>第15回：まとめと授業内容の振り返り</p>			
<p>テキスト</p> <p><i>English Contrasts</i>（イングリッシュ・ガイド－基本文法で学ぶ英語の使い方－）（Robert Hickling、金星堂）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>新聞記事、TVニュース</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への貢献度20パーセント、課題30パーセント、テスト50パーセント</p>			

授業科目名： 情報処理(情報機器の 操作を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 角田 貢 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 1956年のDartmouth会議を出発点とするAI（人工知能）にMachine Learning（機械学習）そしてDeep Learning（深層学習）等が開発されて、特に2015年以降に一層の進展が見られています。更にGPU（画像処理ボード）の性能向上とあいまって大容量Storage（記録媒体）の利用を可能としText（文書など）を含むData（知識、情報）のTransaction（やり取り）及びMapping（関連付け）を利用できる環境が一般にも構築されました。本授業では、小・中学校また幼稚園の教諭を志望する学生が、このような環境を活用できるようになるための素養を身につけ、説明できるようになることを目標とします。			
授業の概要 教員は、白板とプロジェクタを補完的に用いながら説明を行う。受講生は、データ等の通信手段としてe-mail、Webチャット等も利用しながら演習を行なう。そして、Word/Excel/PowerPointを特に活用しながら学習を進めていく学習の途中に、クラスやコース等の学習の進捗に応じてmindmapなど複数のソフトウェアを同時に用いた課題に取り組む（回が下記に示した順の通りとならない）場合もある。更に教員による説明また一方で受講生による自主的学習これらの両方を踏まえて自分に適合すると考えるレベルの課題をNICS-Webから選択する。最終回ぐらいの授業では、進級後に必要となる本学指定の書式に基づいた課題へトライする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（含む基礎力テスト） 第2回：情報メディアの活用と電子ファイルによる課題作成上の注意点 第3回：コンピュータの仕組みとその利活用1（ビット） 第4回：ビットと文書作成 第5回：コンピュータの仕組みとその利活用2（論理） 第6回：論理と表計算 第7回：コンピュータの仕組みとその利活用3（集合） 第8回：データの集まりと図形 第9回：中間（第1～9回）のまとめ及びテスト 第10回：テストのフォロー（達成度の確認） 第11回：スポーツシーン撮影 第12回：撮影したスポーツ画像の情報処理 第13回：プログラミングの最初歩 第14回：本学指定書式（卒業研究抄録）を用いた総合演習 第15回：全体（第1～15回）のまとめ及びテスト			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 『情報A』 『情報B』 『情報C』（坂村 他、数研出版）			

教養のコンピュータサイエンス 情報科学入門（第2版）（小舘 香椎子 他 著、丸善出版）
Practice of Programming (Brian W. Kernighan Rob Pike著、Addison-Wesley Professional)

情報（川合 慧 著、東京大学出版会）

学生に対する評価

基礎（30%）+テスト（40%）+発展（30%）= 合計点，が評価です。この”基礎”は，第1~8回の演習に対する評価です。”テスト”は，中間テスト（第9-10回）に加えて，豆テスト（授業中）と実技テスト（タッチタイプ等Web試験）を含みます。”発展”は，第11~15回の授業に関して教員から提示された問題への評価です。

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 関 芽 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 子どもを教育するという営みについて、歴史的考察を加えながら体系的かつ要素的に理解し、教育活動をささえる原理と今日的課題との関連について説明することができる。			
授業の概要 多くの人々が「当たり前」と考えてきた学校や教育のイメージを一旦崩し、教育とは何か、あるいは学校とは何かといった問題を再考することを促すため、積極的に議論を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 教育を学ぶとは 第2回：人間の発達と教育 生得的資質、自然・社会環境と教育の関係 第3回：教育の意義と目的 「小さな大人」から「子ども」へ 第4回：学校教育の誕生 なぜ我々は他人の子どもの教育に興味関心を抱くのか 第5回：義務教育の誕生 明治期の学校教育 第6回：学校と社会 「学校化社会」(イリイチ)、「監獄としての学校」(フーコー) 第7回：教育の意図せざる効果 隠れたカリキュラム、教室のピグマリオン 第8回：経済資本と文化資本 親から受け継ぐものはお金だけではない 第9回：教育の機会均等の実現とは？ 学校は経済格差に対して無力なのか？ 第10回：誰が子どもの教育内容を決定するのか 国家、学校、保護者のトリレンマ 第11回：学校評価 学校にとっての成功とは何か？ 第12回：教師の多忙 教職の理想と現実のギャップを埋める取り組み 第13回：学校と地域との関わり 協力者としての地域住民 サービスの受益者としての地域住民 第14回：子どもの権利条約 子どもを取り巻く現状と課題 第15回：試験と総解説			
テキスト 授業毎に資料を配布			
参考書・参考資料等 『学校をよりよく理解するための教育学』1巻～6巻(大田 直子他、学事出版)			
学生に対する評価 授業内で課す小レポート(30%)、定期試験(40%)、平常点(30%)を基準に、総合的に判断する			

授業科目名： 教師論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋谷 由紀 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教員の役割・資質能力・職務内容等について基本的な知識や考え方を理解し、自らの適性を判断して教職への意欲を高める。「主体的・対話的で深い学び」の意義を学び、指導のための資質能力を身につけるとともに、教科指導・生徒指導などの具体的な教師の仕事、子供を取り巻く世界と、いま教室で起きている事実などについて理解した内容を説明できるようになることを到達目標とする。			
授業の概要 教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容を主たる要素として授業を構成する。今日の教育現場の現実と向き合い、教育とは何かを問い、教科指導・生徒指導など具体的な教師の仕事を解説する。			
授業計画 第1回：公教育の目的とその担い手である教員の意義 第2回目：他の職業との比較を通じた教職の職業的特徴 第3回目：今日の教員に求められる役割と基礎的な資質能力 第4回目：児童生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務 第5回目：不登校・いじめ問題について 第6回目：学校における安全管理 第7回目：学級担任として、保護者対応で配慮すべきことについて 第8回目：体罰・虐待、地域・家庭との連携について 第9回目：教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障について 第10回目：教員研修の意義及び制度上の位置づけ、生涯にわたって学び続けることの必要性について 第11回目：「授業をつくる」際の基本的な考え方 第12回目：教育課程と組織マネジメント、校務分掌 第13回目：校内の教職員や多様な専門性をもつ人材との効果的な連携・分担 チームとして組織的に諸問題に対応することの重要性 第14回目：学修内容の理解の確認、試験 第15回目：学修のまとめ			
テキスト 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東洋館出版社） 小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年告示 文部科学省、東洋館出版社） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東山書房） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年告示 文部科学省、東山書房）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（50%）			

授業科目名： 教育の制度と経営	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 関 芽
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>我が国の教育制度の理念を理解するとともに、これらが抱える今日的課題について、我が国の戦後教育制度成立の歴史や他国の教育制度との比較を通じて理解を深める。近年の公立学校制度改革の動向を、民衆統制と専門的指導性の調和という戦後教育行政・制度の理念の理解を通じて説明できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近年公立学校においては、自律的な学校経営および地域の学校参加が積極的に求められているが、なぜこのような学校が求められているのかを、これまでの教育制度改革の理念の理解を通じて検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 近年の教育改革の動向を理解するために 第2回：教育基本法 第3回：教育委員会制度の理念と改革 第4回：戦前の教育制度と教員養成 「師弟同行」 「教師聖職者論」 第5回：開放制教員免許制度の理念と課題 教員免許取得に際して国家試験がないのはなぜ 第6回：教科書検定制度 誰が子どもの教育内容を決定するのか 第7回：教員組織の課題 校長のリーダーシップと自律的な学校経営 第8回：学級経営と評価 第9回：教育改革のオルタナティブ① 米国教育制度の事例から 第10回：教育改革のオルタナティブ② 英国教育制度の事例から 第11回：保護者・地域住民とのかかわり 保護者はモンスターではない 第12回：開かれた学校づくりの事例 学校運営協議会・学校地域支援本部 第13回：地域の安全拠点としての学校 放課後こども教室 災害への対応 第14回：学校事故と「教師の三重苦」 事例考察 第15回：試験と総括</p>			
テキスト 授業毎に資料を配布			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>これからの学校教育を担う教師を目指す（日本学校教育学会編、学事出版） 持続可能な社会と教育（日本環境教育学会編、教育出版、2019）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内で課す小レポート（30%）、定期試験（40%）、平常点（30%）を基準に、総合的に判断する</p>			

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 若尾 良徳、市川 優一郎 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育心理学は、教育に関する事象について心理学的に研究し、教育の効果を高めるために必要な心理学的知見と心理学的技術を提供しようとする学問である。この講義では、乳幼児期から思春期、青年期に至る子どもたちの発達と学習に係る諸問題について、教育心理学の基本的知識の獲得を目指し、教育心理学全般を概観する。受講生は、学問的な知見の習得と学校現場における心理学的問題について理解するとともに、獲得した内容を説明できるようになることが目標である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育心理学の授業では、乳幼児から児童生徒に至る子どもたちの心身の発達や学習に関わる諸問題について多面的に講義する。また、学校教育や家庭教育に必要な基礎的な教育心理学的な知識を身に付けるため、各授業回では今日までに得られた教育心理学の学問的な研究成果を教授する。さらに、学校現場で生じている具体的なトピックを取りあげながら、本講義の目的である理論と実践を学ぶという観点から、幅広い授業を展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（教育心理学の領域） 第2回：教育実践と教育心理学の学習内容について学ぶ 第3回：学校における教育心理学的な問題（発達と学習の考え方）について学ぶ 第4回：発達の代表的な理論および発達段階について学ぶ 第5回：乳幼児期の発達の諸問題（運動発達、言語発達、認知発達、社会性発達等）について学ぶ 第6回：児童期の発達の諸問題（運動発達、言語発達、認知発達、社会性発達等）について学ぶ 第7回：思春期・青年期の発達の諸問題（運動発達、言語発達、認知発達、社会性発達等）について学ぶ 第8回：学習の代表的な理論について学ぶ 第9回：効果的な学習の方法について学ぶ 第10回：学習の動機づけについて学ぶ 第11回：学習集団の形成および集団づくりについて学ぶ 第12回：発達と学習を支える諸問題（パーソナリティ、知能、学力等）について学ぶ 第13回：発達と学習を支える諸問題（適応行動、不適応行動、問題行動等）について学ぶ 第14回：発達と学習を支える諸問題（教育測定、教育評価等）について学ぶ 第15回：授業のまとめと振り返り（試験および解説、講評）</p>			
<p>テキスト</p> <p>体育・スポーツを専攻する人のための教育心理学（藤田主一・齋藤雅英・楠本恭久（編）、樹村房、2014年）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東洋館出版社） 小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年告示 文部科学省、東洋館出版社） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東山書房） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年告示 文部科学省、東山書房）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>筆記試験の成績（60%）、ならびに授業への取り組み（40%）を総合して評価する。</p>			

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宇部(金子)弘子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら学び、生きる力を身につけていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解し説明できるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>文部科学省の調査では、通常の教室に特別な配慮を必要とする児童生徒は6.5%に及ぶと報告されている。そのため、教師は発達障害や軽度知的障害の心身の発達や心理的特性、学習過程において理解と対応が求められる。さらに、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度や仕組みを理解し、視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等のさまざまな障害の生活と学習の基本的な知識を持ち、特別支援教育コーディネーターや関係機関・家庭と連携し、支援体制を構築する力も必要である。これらの立場から、子どもの特性と具体的な対応方法を教授し、個別の指導計画や支援計画の作成ができる実践的な力が身につくように授業を展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別支援教育に関する制度やインクルーシブ教育について学ぶ 第2回：特別支援学校における教育課程（自立生活を含む）について学ぶ 第3回：視覚障がいの理解と対応について学ぶ 第4回：聴覚障がいの理解と対応について学ぶ 第5回：肢体不自由の理解と対応について学ぶ 第6回：病弱の理解と対応について学ぶ 第7回：知的障がいの理解と対応について学ぶ 第8回：発達障がい（自閉症スペクトラム障がい）の理解と対応について学ぶ 第9回：発達障がい（ADHD）の理解と対応について学ぶ 第10回：発達障がい（LD）の理解と対応について学ぶ 第11回：その他の特別な教育ニーズのある子どもの理解と対応について学ぶ 第12回：通級及び特別支援学級における教育課程と個別支援計画の作成の意義と方法について学ぶ</p>			

第13回：障がいの事例をもとに支援方法（SSTなど）について学び、具体的な支援計画の作成方法を身につける

第14回：学校における特別支援教育コーディネーターの在り方と特別支援教育の体制構築の必要性について学ぶ

第15回：授業のまとめと振り返り（試験及び解説、講評）

テキスト

『特別支援教育』（齋藤雅英ら 編著、中山書店、2021）

参考書・参考資料等

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)（平成30年3月文部科学省）

特別支援教育の基礎・基本（国立特別支援教育総合研究所、ジアース教育新社）

学生に対する評価

提出物（レポート等）20%・期末試験70%・受講態度・演習参加等10%を総合（100%）して評価する。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 奥村 高明
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の役割・機能・意義を理解し、学習指導要領の性格や位置づけ、教育課程編成の目的等について説明できるようになる。 ・学習指導要領の改訂の変遷について社会背景、時代の変化と関係づけながら説明できるようになる。 ・教育編成の基本原則を説明するとともに、児童や地域の実態をふまえながら教育課程の編成方法、教育内容の選択・配列の留意事項を例示することができるようになる。 ・教科・領域・学年・学期等をまたいで教育課程を編成するカリキュラム・マネジメントについて説明できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>教育課程の意義と内容、編成方法について、その法的側面や社会的背景などから理解を深める。また、教育課程が果たす学校の総合的な教育計画としての役割とカリキュラム・マネジメントの意義について理解を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、教育課程の意義 第2回：教育課程編成の主体 第3回：教育課程編成に関する法規等 第4回：学習指導要領の変遷と時代背景 第5回：学習指導要領改訂とその特徴、社会に開かれた教育課程 第6回：教育課程の編成及び実施の基本原則と具体事例 第7回：教科・領域を横断する教育課程の編成、現代的な課題について 第8回：単元・学期・学年を通じた指導計画の作成 第9回：生徒や地域・学校の実態を踏まえた教育課程の編成、学力向上と全国学力・学習状況調査 第10回：カリキュラム・マネジメントの重要性 第11回：教育課程とカリキュラム評価 第12回：校長の学校経営方針と学校職員の役割 第13回：戦前の教育制度と社会の変化 第14回：諸外国の教育課程の編成・実施・評価 第15回：学修のまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東洋館出版社） 小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年告示 文部科学省、東洋館出版社） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東山書房） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年告示 文部科学省、東山書房）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>次代を創る「資質・能力」を育む学校づくり第1巻～ 第3巻（吉富芳正 編著、ぎょうせい 2017）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内課題における内容、ディスカッション等（50%）、レポート「私の学校・教育課程の基本方針」の作成（50%）を基に、総合的に判断する。</p>			

授業科目名： 道徳教育の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋谷 由紀
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 道徳の理論及び指導法について、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容の理解を図る。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等について理解した内容を説明できるようになるとともに、学習指導案の作成や模擬授業を通じて、実践的な指導力を身に付ける。			
授業の概要 道徳教育の理論及び指導法について、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法の理解を図るとともに、学習指導案の作成や模擬授業を通じて実践的な指導力の基礎を育む。			
授業計画 第1回：道徳とは何か、子どもの心の成長と道徳性の発達 第2回目：道徳教育の歴史、現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等） 第3回目：教育課程における道徳教育と道徳科の位置付け、学習指導要領の構成 第4回目：道徳科の目標と内容、4つの視点と道徳的諸価値 第5回目：指導計画の作成と内容の取扱い 第6回目：道徳科の指導方法1（読み物資料の活用）、発問、学習指導案について 第7回目：道徳科の指導方法2（問題解決的な学習）、学習指導案の作成 第8回目：道徳科の指導方法3（体験的な学習） 第9回目：道徳科の指導方法4（いじめの防止） 第10回目：道徳科の指導方法5（模擬授業と振り返り） 前半グループ 第11回目：道徳科の指導方法6（模擬授業と振り返り） 後半グループ 第12回目：教科等における道徳教育 第13回目：指導と評価の一体化、授業改善の視点、道徳科における評価 第14回目：学修内容の理解の確認、試験 第15回目：学修のまとめ			
テキスト 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年告示 文部科学省、廣済堂あかつき株式会社） 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成29年告示 文部科学省、教育出版）			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東洋館出版社） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東山書房）			
学生に対する評価 定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（50%）			

授業科目名： 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋谷 由紀 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 学習指導要領の構造をもとに、特別活動及び総合的な学習の時間の授業の理論、指導方法や評価について理解した内容を説明できるようになることを到達目標とする。			
授業の概要 学習指導要領における目指す子供像や育成すべき資質・能力などをもとに、特別活動及び総合的な学習の時間の授業の理論、指導案作成や、模擬授業を通じて、指導方法、評価について解説する。			
授業計画 第1回：学習指導要領における特別活動の目標、内容、教育課程における位置付けと各教科等との関連を理解する 第2回目：教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方、評価・改善活動の重要性を理解する。 第3回目：学級活動の目標、内容、特質等を理解するとともに、学級経営との関連について考える。 第4回目：学級活動(1)の実践事例を分析し、合意形成に向けた話し合い活動の指導の在り方を理解する 第5回目：学級活動(2),(3)の実践事例の分析し、意思決定につながる指導の在り方を理解する。 第6回目：児童会活動・生徒会活動の目標、内容、特質、教育的意義等を理解する。 第7回目：クラブ活動、学校行事の目標、内容、特質、教育的意義等について理解する。 第8回目：総合的な学習の時間の意義と教育課程における果たす役割、育成すべき資質・能力の視点から理解する。 第9回目：小・中学校の総合的な学習の時間の目標、内容、評価等、概要を理解する。 第10回目：各教科等との関連を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性を理解する。 第11回目：主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性を理解するとともにその具体的な事例を分析する。 第12回目：探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てについて理解する。 第13回目：総合的な学習の時間における児童の学習状況に関する評価の方法及びその留意点について理解する。 第14回目：学修内容の理解の確認、試験 第15回目：特別活動、総合的な学習の時間における家庭・地域住民や関連機関との連携の在り方について理解する。学修のまとめ			
テキスト 小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年告示 文部科学省、東洋館出版社） 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年告示 文部科学省、東洋館出版社） 中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年告示 文部科学省、東山書房） 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年告示 文部科学省、東山書房）			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東洋館出版社） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東山書房） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省、東山書房）			
学生に対する評価 定期試験（50%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（50%）			

授業科目名： 教育の方法及び技術(情報通信技術の活用を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 根本(佐藤)淳子
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：これからの社会を生きる子どもを育てる授業と学びのデザイン</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法の理論を自分の言葉で説明できる ・自分で選択した領域での授業（教え方）を題材に、授業の目的に適したICTを含む指導方法 ・評価方法を選択して学習指導案を作成できる ・ICTを活用する意義や理論を理解し、学習指導や校務に位置づけて説明できる ・情報活用能力を育成する意義および育成方法を説明できる 			
<p>授業の概要</p> <p>上手く教えられるとはどのようなことだろうか？本科目では、授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を授業パッケージづくりを通して学びます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：これからの子どもたちに育みたい資質・能力／<u>教師に求められる授業力（ICT活用を含む）</u></p> <p>第2回：授業をつくるということ・授業づくりのプロセス</p> <p>第3回：学習評価をデザインする・目標・指導・評価の一体化の意義</p> <p>第4回：学習環境のデザインと<u>デジタル化</u></p> <p>第5回：授業を支える指導技術（<u>教師によるICT活用を含む</u>）／<u>学習者の多様性・学びを引き出す指導技術（児童・生徒によるICT活用を含む）</u></p> <p>第6回：授業企画書の発表会</p> <p>第7回：学習指導案をつくる（1）学習目標の設定</p> <p>第8回：学習指導案をつくる（2）深い学びを導く教材研究</p> <p>第9回：学習指導案をつくる（3）主体的・対話的な学習過程</p> <p>第10回：学習指導案をつくる（4）<u>学びが見える評価方法と学習履歴データの活用</u></p> <p>第11回：<u>授業の魅力を高めるICT・デジタルコンテンツの活用</u></p>			

第12回：授業パッケージ発表会

第13回：教科を横断して情報活用能力（情報モラルを含む）を育てる

第14回：ICT活用を含む模擬授業の実施と授業の改善

第15回：これからの学習環境・校務の効率化を支えるテクノロジーの役割／まとめ

テキスト

教育の方法と技術～主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン（稲垣忠編著、北大路書房、2020）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東洋館出版社）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省、東山書房）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省、東山書房）

学生に対する評価

①《修正版》授業企画書一式 10点

②授業パッケージ（学習指導案）30点

③模擬授業・教材資料 15点

④振り返りレポート 5点

⑤毎回の授業参加レポート（タスク）40点

課題をすべて提出することを単位取得の条件とする。

授業科目名： 生徒指導論(進路指導・ キャリア教育を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 若尾 良徳、齋藤 雅英 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育理論及び方法 		
授業のテーマ及び到達目標 生徒指導は、生徒の社会的資質や行動力を高めることを目指した教育活動であり、進路指導は自ら進路を選択し能力を伸ばせるよう、人間形成を目指す教育活動である。また、キャリア教育は学校と社会との接続を意識し、社会的自立に向けた資質・能力を育むことを目的としている。これらの視点に立ち、授業改善や体験活動、評価改善の推進、ガイダンスとカウンセリングの充実、組織的体制に必要な知識や素養を身に付け、説明できるようになる。			
授業の概要 近年、学校現場における不適応行動や問題行動の多発から、教育の真の在り方が問われている。また、子どもたちは、将来、社会的・職業的に自立し、自分らしい生き方を実現する力が求められており、発達段階にふさわしいキャリア教育を推進・充実させることが求められている。これらの立場から、生徒指導と進路指導、キャリア教育の意義、基礎的知識とその応用について教授し、実践的な力が身につくよう授業を展開する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（生徒指導、進路指導、キャリア教育の概要について学ぶ）（担当：若尾良徳） 第2回：生徒指導の意義と役割について学ぶ（担当：齋藤 雅英） 第3回：生徒理解の方法について学ぶ（担当：齋藤 雅英） 第4回：学校における生徒指導について学ぶ（担当：齋藤 雅英） 第5回：懲戒と体罰について学ぶ（担当：齋藤 雅英） 第6回：問題行動について学ぶ（担当：若尾 良徳） 第7回：いじめについて学ぶ（担当：齋藤 雅英） 第8回：不登校について学ぶ（担当：若尾 良徳） 第9回：校内暴力と家庭内暴力について学ぶ（担当：若尾 良徳） 第10回：特別支援教育について学ぶ（担当：若尾 良徳） 第11回：進路指導とキャリア教育の意義と役割について学ぶ（担当：若尾 良徳） 第12回：学校における学びと進路指導、キャリア教育の関係について学ぶ（担当：若尾 良徳） 第13回：生徒指導と進路指導、キャリア教育のための組織体制について学ぶ（担当：齋藤 雅英） 第14回：生徒指導、進路指導、キャリア教育と教育相談との関係について学ぶ（担当：齋藤 雅英） 第15回：生徒指導、進路指導、キャリア教育のためのカウンセリング技法について学ぶ、および期末試験（担当：若尾 良徳）			
テキスト 生きる力をはぐくむ生徒指導論（藤田主一・齋藤雅英・宇部弘子・市川優一郎（編）、福村出版）			
参考書・参考資料等 生徒指導提要（文部科学省、教育図書）			
学生に対する評価 提出物(レポート等)10%、期末試験60%、受講態度・意見発表等30%を総合(100%)して評価する。			

授業科目名： 教育相談(カウンセリングを含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宇部 弘子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、対人援助職としての教師の資質に欠かせないカウンセリング・マインドを獲得できるよう①基本的なカウンセリングの技法を身に付け、②生徒の発達上の特性を理解して内容を説明できるようにし、個別支援・集団支援の在り方を学ぶことを主題とし、実際の教育現場の課題やニーズに対応できる応用力を身につけることを目標とする。			
授業の概要 教育現場が抱える課題を認識しながら、教師として何が望まれているのか、実際の生徒対応に必要な教育技術とは何であるかを授業テーマに沿ってその都度考え、必要な知識と技法を身につけられるよう内容を構成した。			
授業計画 第1回：学校教育における教育相談の意義と課題について学ぶ 第2回：就学前から小学校までの子どもの発達について学ぶ 第3回：中学校から高等学校までの子どもの発達について学ぶ 第4回：発達障害の種類と特性について学ぶ 第5回：発達障害の特性に合わせた支援について学ぶ 第6回：精神疾患やこころの問題とその対応について学ぶ 第7回：カウンセリングの理論について学ぶ 第8回：カウンセリングの基本的な姿勢や技法について学ぶ 第9回：学校における問題行動（いじめ・非行）とその対応について学ぶ 第10回：学校における問題行動（不登校）とその対応について学ぶ 第11回：学校で役立つアセスメントについて学ぶ 第12回：スクールカウンセラー（スクールソーシャルワーカー）の活用と協力方法について学ぶ 第13回：教育相談体制を支えるための校内体制の在り方と外部の関係機関との連携について学ぶ 第14回：子どもを支えるための保護者への支援と協力について学ぶ 第15回：授業の振り返りとまとめ（試験及び解説、講評）			
テキスト こころの発達によりそう教育相談（藤田主一他（編著）、福村出版）			
参考書・参考資料等 生徒指導提要（文部科学省、教育図書）※改訂があれば最新版を使用			
学生に対する評価 提出物（レポート等）20%・期末試験70%・受講態度・演習参加等10%を総合（100%）して評価する			

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習(小・中)		単位数：2単位	担当教員名：橋谷 由紀、東野 裕子		
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 25人(5クラスで実施)					
教員の連携・協力体制 教職に関する科目担当者(教職経験者)を中心として、各教科・領域に関する担当教員が協力して指導する。					
授業のテーマ及び到達目標 これまでの大学での学修及び教育実習の経験を踏まえ、自己の課題を見つけ、課題解決型の学修を通して、授業および学校において起こる諸課題を解決していくことのできる実践的指導力を身に付ける。					
授業の概要 演習形式の授業として、ICTを活用し、学習指導案及び学級経営案の作成、学級通信や学級目標の作成、模擬授業、教育課題についてのケーススタディやロールプレイングを通して、学校教育で起こる様々な問題に対する実践的指導力を育成する。教員の指導体制としては、教職に関する科目の担当者と各教科・領域に関する科目の担当者の協働により、教員が交代しながら授業を行う。					
授業計画 第1回：オリエンテーション、これまでの学習と教育実習の振り返り、教員として必要な資質能力の自己評価(担当：橋谷・東野) 第2回：学級経営の意義と目指す子供像(担当：橋谷) 第3回：学級経営案の作成と交流(担当：橋谷) 第4回：学級通信の意義と作成(担当：橋谷) 第5回：保護者対応の意義と具体的方法(担当：橋谷) 第6回：小学校・中学校におけるキャリア教育(担当：橋谷) 第7回：ICTを使った学習指導について、学習指導案の構想と作成(担当：東野) 第8回：学習指導案の交流とICTを活用した模擬授業(担当：東野) 第9回：学習評価の意義と方法、ICTを活用した評価(担当：東野) 第10回：学習評価の実践(模擬評価)(担当：東野) 第11回：ティーム・ティーチングの在り方(担当：東野) 第12回：学級担任の役割と教科担任制(担当：橋谷) 第13回：連携(異校種連携と校内連携(ICTを使用した連携))、校内研修の在り方(担当：東野) 第14回：教員に求められる力、レポート作成、試験(担当：橋谷・東野) 第15回：レポート発表、教員としての必要な資質能力の確認、まとめ(担当：橋谷・東野)					
テキスト 小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省、東洋館出版社) 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省、東山書房)					
参考書・参考資料等 教育実習の記録(日本体育大学)、教育実習の手引(日本体育大学)					
学生に対する評価 レポート(30%)、学級経営案・学習指導案(20%)、模擬授業(20%)、試験(30%)で総合的に評価する。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。